



『曾左校区』をたずねて

「曾左」の名は、素盞鳴尊の古事による書写山の旧名である「素盞」に由来するといわれる。書写の名は、康保3年(966)、瑞雲に導かれた性空上人が入山の時、「山の半にて化人来りて上人に告ていはく、山を書写と名づく、^{じゅうず}鷲頭土を分かち、嶺をは一乗と号す、云々」(播州書写山縁起)にならっている。

西国観音霊場第27番札所である性空上人開基の古刹・書写山円教寺を支えながら、その門前町として栄えてきたのが、東坂本および西坂本村と西坂本村の枝村から延宝年間(1673~81)に分かれて独立した田井村である。東坂本から東坂参道が、西坂本から西坂参道が、それぞれ円教寺に通じている。書写ロープウェイが完成したのは昭和33年(1958)である。

明治9年(1876)、東坂本村・西坂本村・田井村を統合して、書写村と称した。明治22年(1889)、市制・町村制実施により、書写村・六角村・刀出村を合わせた飾磨郡曾左村が成立し、旧書写村は曾左村の大字・書写となる。昭和29年(1954)、曾左村は姫路市に合併。昭和38年(1963)、東洋大学附属姫路高等学校が開校、昭和45年(1970)、県立姫路工業大学が移転開校、学園町となる。昭和54年(1979)、六角・刀出は新設の峰相校区に移り、書写(旧書写村)と蒼生台(昭和42年新興)の18自治会・3,160世帯が、現在の「曾左校区」である。(平成9年)



池田輝政検地明細地図



善福寺

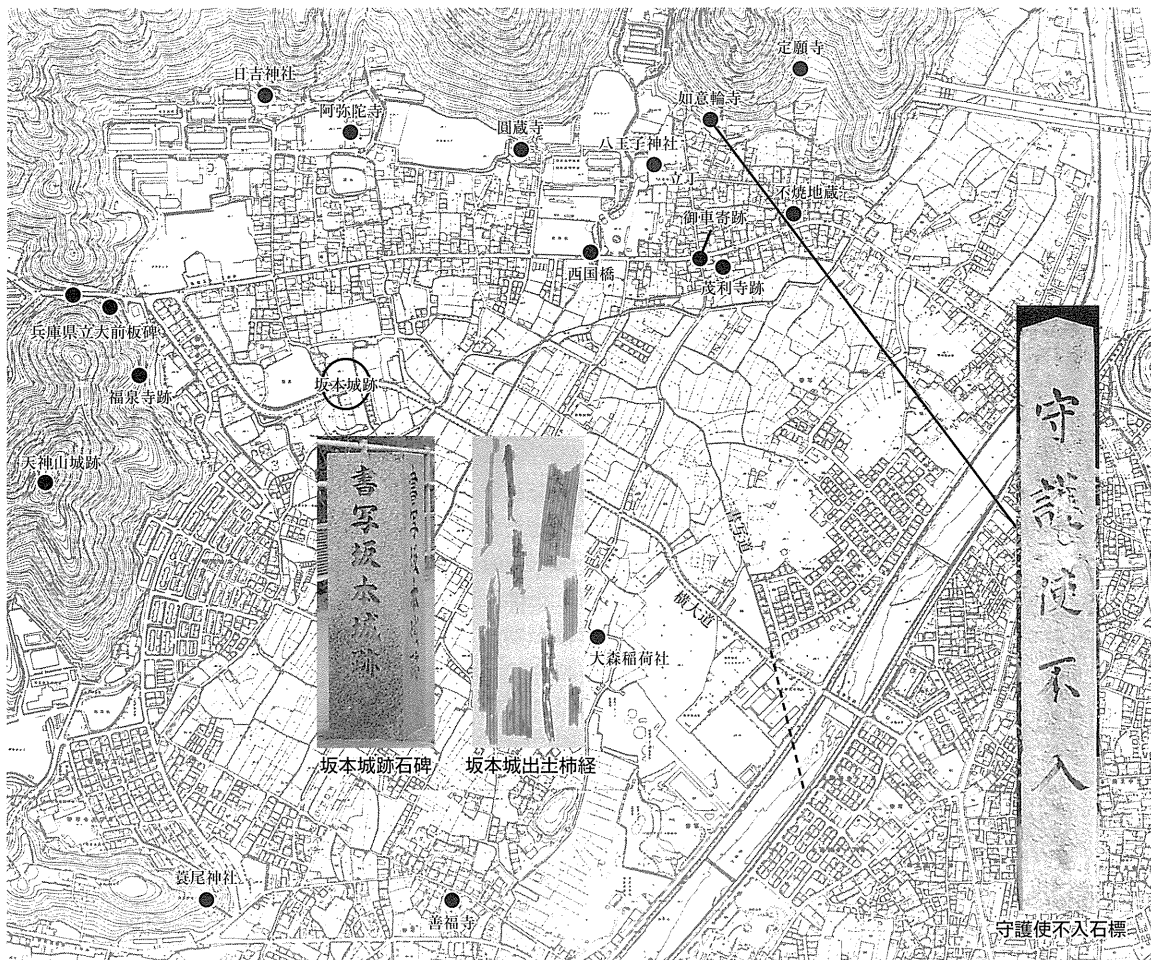


大森稲荷社

池田輝政検地明細地図 慶長6年(1601)、池田輝政が姫路城を築城するために二割打出検地を行ったといわれる検地地図(東坂自治会所蔵)。

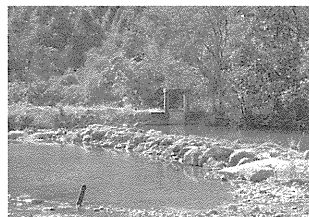
葦尾神社(書写字美濃山) 西坂本の大年神社の氏子であった田井の村人が、明治8年(1875)一社を創建し、田井村の氏神とした。大年大神・大山咋大神・倉稲魂大神の三神を合せ祀る。この神域が書写1番地。
発招山善福寺(書写字大道) 天文元年(1532)、順正の開基で、本尊は阿弥陀如来。寛延元年(1748)9月2日の暴風雨で流失した田井村の集落移住とともに、移動した歴史がある。

大森稲荷社(書写字古屋敷) 祭神は倉稲魂大神。創始年は定かではないが、「田井の大森さん」と親しまれている。寛延の大水害まで、この社の周辺に田井の集落があったのが、古屋敷の字名の起源であろう。境内のムクノキとエノキの古木は姫路市自然保護条例に基づく保存樹に指定されている。



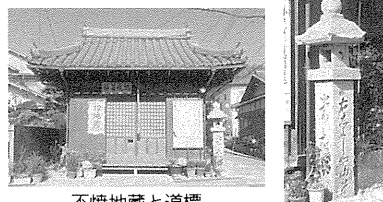
夢前川待井堰（書写井堰） 西坂・田井・東坂三ヶ村共用の井堰であるが、西坂・田井は酒井雅楽頭領、東坂は書写山寺領であるため、用水配分をめぐる激しい争論・訴訟を繰り返した歴史がある。

昔から6月15日は三ヶ村例会による井堰が行われた。「岩取り」といい、堰場に岩・石を並べこれに筵を当てて砂利・砂を盛る。この日は村に肉や魚を売る行商がやって来て豪華な弁当二食を携行して村中総出である。酒も振る舞われた。翌日から田植えが始まる前祝いの祭り気分だった。



待井堰（書写井堰）

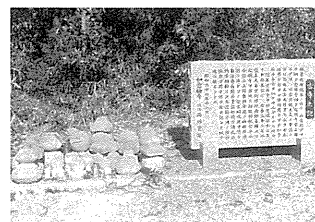
榜示石 本田・新開田の境界に立てられた石標。田井・東坂・西坂三地区が立会いの上、榜示検分が行われた。この検分が済まないと、新開田の田植えは出来ないという仕来りがあった。現在も慣行として、検分が実施されている。



不焼地藏と道標

不焼地藏堂（書写字川之丁） 書写山蓮乗院の地藏尊が移され、1556年（弘治2）の建立。東坂本の大火に焼損を免れたという奇譚から、不焼地藏と尊崇されている。堂の脇に常夜燈型の道標がある。

紫雲山定願寺跡（書写字書写山） 1426年（応永33）書写山鎮増和尚の建立。1441年（嘉吉元）に起った嘉吉の乱では、赤松満祐が足利直義の孫、冬氏^{はつない}を将軍に奉戴し定願寺に入れ「井原御所」と称した。1880年（明治13）廃寺、本堂は加古川野口の念仏山教信寺に譲渡され、本堂として現存する。



定願寺跡

補陀落山如意輪寺（書写字獅子原） 1002年（長保4）書写開山祖性空上人開基の古刹で、本尊は如意輪観音菩薩半跏像。1398年（応永5）書写山は女人禁制となり、心空慈傳上人は同寺の傍らに女人堂を創始、女人巡礼の札所とした。境内には、守護使の検注租税督促を禁じた「守護使不入」の石標（かつて書写山領入口にあったもの）と夢前川畔の地藏堂に祀られていた「川原地蔵」が移されている。

1909年（明治42）には、荒廃した字大門の満願山茂利寺と字川ノ丁の摩尼山寶聚寺を合寺。

八王子神社（書写字宮ノ下） 書写山の性空上人が、広峯神社の分霊を書写山鉢ヶ坪に迎えて王子権現と称した。祭神は素盞鳴尊と八柱御子神（五男三女神）。天正年中（1573～1592）、この神々を東坂の神籬の空間に社殿を構えて遷座されたのが八王子神社である。境内社に秩父稻荷社・大年社・池鯉鮒社・山神社・毘沙門社・戎社・金比羅社・地藏尊などがある。また、社前に1830年（文政13）の銘が刻まれた出雲狛犬（石工長八）と力石1個がある。

御車寄跡（書写字大門） 986年（寛和2）・1002年（長保4）に花山院が、1333年（元弘3）には後醍醐天皇が書写山行幸の際、車駕を駐輦された屋敷跡である。1935年（昭和10）東坂青年会が發起して駐輦碑を建立。文は八王子神社社掌・梅宮熊吉、書は文学博士・三上參次。

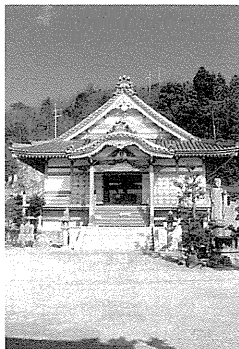
立丁（書写字大門・木ノ下・獅子原・宮ノ下） 立丁は村を構成する丁組織の一つである。姫路城下より書写山に向かう道筋に縦に連なる家々の結合したのが立丁であり、神仏の祭祀・葬祭のため、今に維持されている。かつては、書写山通りともいえる立丁には巡礼宿や商家が軒を並べていた。今に井筒屋・因幡屋・赤壁屋・椿屋などの屋号が伝わる。

福寿山圓蔵寺（書写字門ノ外） 985年（寛和元）圓正開基の古刹で、本尊は如意輪観音菩薩、往古は大年神社と共同関係にあり、別当寺をつとめたという。

無量寿山阿弥陀寺（書写字観音寺下） 1041年（長久2）書写字西ノ口に僧養季開基、本尊は阿弥陀如来。1398年（応永5）兵火で消失、足利四代將軍義持は、赤松義則（則村の孫）に命じて再建、御願寺としている。同寺は1855年（安政2）寺小屋を開設して、代々住職が西坂本の子弟を教育し、1893年（明治26）まで続いた。

日吉神社（書写字書写山） 書写山開基の性空上人が、比叡山の守護神・山王権現の分霊を迎えて書写山の鎮守とした。長和年中（1012～1017）、この神々を慶雲上人が、社を創建して奉斎し、山王七社の神々の本地仏（山聖四菩薩）に倣って三聖堂あるいは山王社と称した。

毎年1月8日と5月23日には、神前で円教寺の僧侶による「山王礼拝講」の法儀が一山行事として執行される。



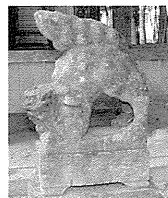
如意輪寺本堂



如意輪観音菩薩半跏像
平成8年12月2日市指定



八王子神社



狛犬



力石



圓蔵寺



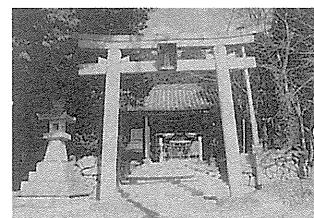
御車寄跡



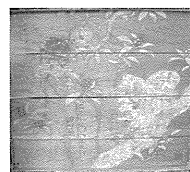
阿弥陀寺



西坂参道道標



日吉神社



猿図絵馬
（文政4年）

坂本城跡（書写字溝江） 平城で別名を堀之城または御構御所ともいう。1422年（応永29）赤松満祐播磨支配の拠点として築城。赤松圓心の時代、播磨支配の構居としていたとも考えられる。

城跡は土塁を堤防にした池（溝池）に転用されていたが、1748年（寛延元）姫路藩百姓一揆につながる暴風雨により決壊、田井村を洪水が襲い、集落の移動をもたらした。その後、池は埋め立てられ水田となっている。

天神山城跡（書写字天神山） 築城年は定かではないが、天神山福泉寺縁起には「此山峯極めて高かりけるに圓心遠見の櫓を揚て四方を見給うに街道は此山より十四五丁下にて東国四国の軍勢の往来有々と見え云々」と記す。

政庁坂本城に対する有事の天神山城という共同関係をもっている。「大河内越中守実泰が天文年中（1532～55）これを守る。ついで魚住八郎左衛門尉治吉がこれを守った。治吉は構（坂本構城）城主魚住範吉の弟也。天正に至ってこれを守る。同6年（1578）落城」（赤松家播備作城記）。

床坂（書写字床坂） 県道石倉玉田線の六角から書写西坂へ越える峠。『播磨鑑』に「書写山西坂元村ノ西 いさゝ王鹿ノ頭也 宍粟より沖の方への通路 今福中姫路ノ内の地に鹿か坪有 休所坂元西坂元西ノ方 云々」とある。いさゝ王（伊佐々王）については、安富町内の「鹿が壺」に次のような伝説が残る「安志奥ニ伊佐々王トテ高二丈余ナル大鹿ニノ角ニ七ノ草刈有テ身ニハ苔生ヒ眼ハ日ノ光ニ異ナラス数千ノ鹿ヲ相従ヘ人類ヲ喰スル間嘆キ日ヲ追テタヘス 云々」（峰相記）。

床坂は、鹿が壺・鹿か坪間を往来する伊佐々王の休憩所だったというのである。

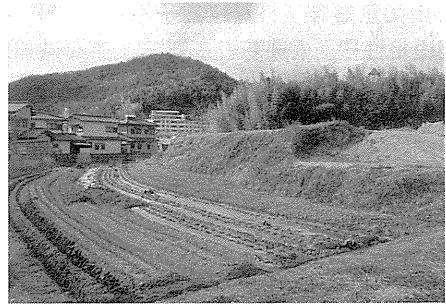
兵庫県立大前板碑（書写字天神ノ下） 床坂峠崖壁面にある地藏尊の傍らに立っている。「釈迦如来」「薬師如来」「阿弥陀如来」それぞれの種子と康永4年（1345）の和暦が刻まれている。

福泉寺跡（書写字天神ノ下） 天神山麓に黄檗宗の寺院・長涌山福泉寺があった。境内に元、書写西坂の氏神である村社・天満宮と稲荷社があった。創始年は不詳だが、元弘の初め赤松圓心の再建になる。また近くに名水の湧く泉があり、羽柴秀吉が姫路在城の間、茶の湯に愛用したと伝える。

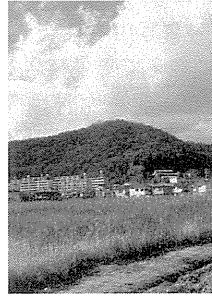
西国橋（書写字木ノ下） 県道石倉玉田線で、東坂と西坂の境の書写川（俗称法華堂）に架かる小橋。西国巡礼に因んで名付けられた橋名であろう。

満願寺茂利寺跡（書写字大門） 天平年間（729～749）僧行基の開基した古刹。書写行幸の花山院も一泊したという。1875年（明治8）高基学校開校。1900年（明治33）まで続いた。明治42年、如意輪寺に合寺される。

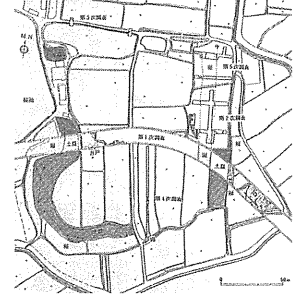
編集 梅 津 勉（元曾左公民館長）



坂本城跡（土塁跡・堀跡 平成9年）



天神山城跡



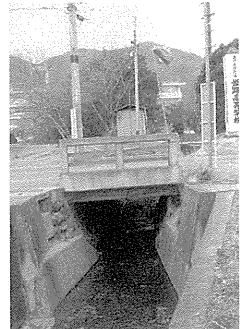
坂本城跡遺構図（黒色は土塁跡）



古地図に見る床坂



兵庫県立大前板碑



西国橋



茂利寺跡